

KADENZA

KADENZA カデンツァ VOL.88 | 2026 APR-JUN

ISHIKAWA ONGAKUDO / ORCHESTRA ENSEMBLE KANAZAWA CONCERT GUIDE



音楽堂パイプオルガン
ここだけの話

岩城宏之没後20年
岩城イズムの継承



SPECIAL FEATURE #1

音楽堂パイプオルガン ここだけの話

ONGAKUDO ORGAN INSIDE STORY



DATE

音楽堂のパイプオルガン

- 設計・製作・組立：
カール・シュッケ社
(ドイツ・ベルリン)
- 演奏：
鍵盤4段鍵盤+ペダル鍵盤
69ストップ、パイプ数=5143本
- スタイル：
ドイツ・ロマンティック

オルガンデザインは広げた扇の形がモチーフ。演奏台の各所には輪島塗が取り入れられ、扉には桜と楓の図柄が描かれています。

2025年11月〜2026年3月まで行われた、2001年開館以来はじめてのパイプオルガンのオーバーホール(分解点検修理)。休館中に行われた見学会には多くのお客様にお越しいただき、メディアでも幾度となく取り上げられ、県民の皆様の注目度が伺えました。

今回はカデンツァでしか聞けないお話を...とパイプオルガンの改修のためベルリンから来日されたパイプオルガンの技師ロベルト・マテージアックさん、そして音楽堂ではお馴染みのオルガニスト・黒瀬恵さんにお話を伺えました。25年分の歴史が浮かび上がってくる、そんなエピソードがもりだくさんです。

ORCHESTRA



2026-2027 ENSEMBLE KANAZAWA



ホールに響く、音の幸。

ホーストラ・アンサンブル金沢 2026-2027定期公演

申込は
webで完結!

充実のラインナップお得なセット券を
ホームページでご確認ください。
<https://www.oek.jp/membership>

お申込・お問合せ
TEL076-232-8571
(平日10:00~18:00)



定期会員 受付中!

一年を通して楽しむ	フィルハーモニー・シリーズ	マイスター・シリーズ	ファンタスティック・オーケストラ・コンサート	お好きな公演だけ選べる
シリーズ 会員 QRコード	SS席 58,000円 → 37,700円 S席 50,000円 → 32,500円 A席 38,500円 → 25,000円 ビスタ席 22,500円 → 14,600円	SS席 35,000円 → 24,500円 S席 30,000円 → 21,000円 A席 22,500円 → 15,800円 ビスタ席 12,500円 → 8,750円	SS席 21,000円 → 14,700円 S席 18,000円 → 12,600円 A席 13,500円 → 9,500円 ビスタ席 7,500円 → 5,250円	セレクト 会員 QRコード 全席/全公演 割引20%OFF

(公財)石川県音楽文化振興事業団 〒920-0856 金沢市昭和町20-1 (石川県立音楽堂) TEL076-232-0171

KADENZA

Vol.88 INDEX

特集① 音楽堂パイプオルガン ここだけの話	02
特集② 岩城宏之没後20年 岩城イズムの継承	06
4-5月 OEK定期公演聴きどころ	09
第24回北陸登竜門コンサート	11
ガルガンチュア音楽祭	13
金沢百番街×石川県立音楽堂 少女漫画家・木原敏江	15
公演情報	17

INTERVIEW

カール・シュッケ社 整音師
ロベルト・マティージャック氏



▲改修中のパイプオルガン
(2025年12月撮影)

今回のオーバールームのため、開館時のオルガン設置にも携わったカール・シュッケ社の整音師・ロベルトさんが再来日。作業の合間を縫って話を伺うことができました。開館当時のエピソードからオーバールームという作業、整音師という仕事に至るまで興味深いお話ばかり——ぜひこの機会にオルガンに携わる技術者の仕事に触れてみてください。

—25年ぶりの金沢ですね。

当時は新幹線の高架もなく、音楽堂の周り一面が工事現場でした。岩城宏之さんが時折オルガンを見に来られて、少し言葉を交わしたこともありましたが、3か月滞在し、開館1か月前にはオルガンの設置が終わって帰国したのです。それから25年の時が経ちましたが、街の風景は変わってもこのホール自体は綺麗のままです。

—当時の音楽堂芸術総監督である岩城宏之さんから「オルガンに特殊な機能をつけてほしい」というリクエストがあったそうですが。

オルガンのモーターの出力を調整して、風圧をわざと下げる機能のことで。現代音楽において使われます。風圧を極限まで下げると、パイプが正常に振動しなくなり、音にならないくらいのため息——ノイズのような音だけが出るというものです。この効果を綺麗に出すためには、オルガンのすべてのパイプの音が完璧に整えられていないといけません。バラつきが出てしまいますからね。

—今回のオーバールームはどのような流れで行われたのでしょうか。

まずオルガンの状態をみて何をすべきか事前の計画を立てます。カール・

シュッケ社からは最初2名のスタッフが8週間かけて掃除に専念し、その後私たちが来て彼らの仕事を引き継ぎながら同時進行でチューニングをして響きの調整に入りましたが、20週間ほどでようやく完了させます。パイプオルガンとはそれだけ大きくて精密な楽器なのです。

—より傷みの激しい箇所などはありましたか？

ヨーロッパの教会にあるオルガンだと暖房費が高いため冬でも暖房を入れず、結露が発生するためにカビが大きな問題となります。日本ではホールの空調管理が非常にしっかりしているの、カビの心配はほとんどありません。一方で、日本では気候のせいなのかオルガンに風を送り込む「ふいこ」に使われているレザーの劣化がヨーロッパよりも早いです。ヨーロッパなら50〜80年持ちますが、アジアでは紙のようにボロボロになってしまうことがありますが。金沢でも4つのふいこの革を新しくしました。

—オルガンを「整音」とは具体的にどのような作業をするのでしょうか。

ピアノの調律師は張られた弦をハンマーで調整して音を整えますが、オルガンはパイプの長さを伸ばしたり



ロベルト・マティージャック氏(左)

良い状態を維持する秘訣は、常にオルガンを弾き続けること。

短くしたりします。オイルサーディンの缶を空けると蓋がロールのように丸まるでしょう？ 金管のパイプの後ろにはそのようなパーツがあるので、大きいパイプなら自分の体重をもってパイプを下げたり、小さいパイプなら注意深くハンマーで叩いて微調整し、音程を合わせます。木製のパイプには蓋がついていて、それを突っ込んだり引っっこ抜いたりして調整します。どちらのパイプも調整は撫でる程度。ミリメートルなんて単位じゃない、非常に繊細な力加減で行います。

さらにリードパイプもあり、これは金属の「リード」が風で振動して音が出る仕組みです。大きなものは30センチ、小さなものは数ミリ、厚さは0・05ミリという非常に精密なものです。このリードは短くすると音が高くなります。

—そうやって音程を合わせた後、響きの調整に入られるんですね。オルガンはそれぞれ

に特徴がありますが、その上でオルガニストから「もつと鋭い音に」「もつと柔らかく」「音を大きくして」といったリクエストには応じることがあります。音色を微調整することも整音師の重要な仕事です。

オルガンの音には流行があります。1920〜30年代は澄んだ音、戦後は60〜70年代は非常に鋭い音が好まれました。現代はロマンティックな柔らかい音が好まれる傾向にあります。金沢のオルガンはそのロマンティックな音に近いですね。

—今回の作業で、オルガンは2001年の開館当時の状態に戻ったということでしょうか。

その通りです。また約25年後にオーバールームを行うときも、同じように2001年のオリジナルに戻す作業を繰り返すこととなります。

良い状態を維持する秘訣はオルガンを常に動かし弾き続けること。オルガンは100年、200年は優にもつ頑丈な楽器ですが、高価な楽器だからといって使わずにしまっておくのが一番良くありません。ドイツには「Wer rastet, der rostet.(休むものは錆びる)」という格言があるんですよ。ぜひこのオルガンの素晴らしい音を楽しんでください。

金管のパイプはロール状、木製のパイプは蓋がついていて、それぞれのパーツを調整することで音程を合わせる。



空輸で届いたパイプを音楽堂へ運び入れている様子



SPECIAL FEATURE #2

岩城宏之没後20年 特別企画

岩城イズムの継承

文：片桐卓也（音楽ジャーナリスト）

山田和樹・篇

KAZUKI YAMADA

2026年10月、音楽堂25周年記念公演に山田和樹氏が出演することが発表されました。2025年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団との初共演など現在ヨーロッパで大活躍ですが、彼が初めて振ったプロフェッショナル・オーケストラはOEK―声をかけたのは岩城宏之の初代音楽監督でした。以前音楽堂で開催されたカルチャーナビ（2025年1月）での発言から、彼の指揮者としての出発点をまとめました。

出合いはいきなりやって来ました。2006年の春、岩城宏之さんから突然呼び出されて、ホテル・オーケラでお目にかかったのですが、僕のスケジュールも何も聞かずに、「金沢で演奏会があるから、それを指揮して」と言われたのです。それが4月14日の「第5回北陸新人登竜門コンサート」でした。当時、僕はまだプロのオーケストラを振ったことはなく、東京混声合唱団などを指揮していただけでしたので、びっくりしました。その登竜門コンサートには篠原悠那さん（ヴァイオリン）、荒井結さん（チェロ）が出演して、それぞれが協奏曲を弾いたのですが、ようやく、自分のプロフィールにプロのオーケストラを振ったという経歴が付くので、引き受けたのです。そうしたら、それ以後、日本の各地のオーケストラから指揮の依頼が次々と来るようになったのです。

そのコンサートが開催された時には、岩城さんは入院されていたのですが、コンサート直後に電話がかかって来て、「評判良いよ」っておっしゃる。岩城さんは電話魔で、僕のコンサートでの指揮ぶりを

SPECIAL FEATURE #1

音楽堂 パイプオルガン ここだけの話

インタビュー
オルガン奏者 黒瀬 恵



―黒瀬さんは月2回ほどメンテナンスをしてくださっていますよね。
具体的には弾きこんでるんですね。弾いて空気をパイプに流さないといけないので、定期的には定期的なメンテナンスが必要なんです。あとは公演当日いきなり不具合が見つかったら大変なので、定期的なメンテナンスを確認するためです。そして、弾くたびに気になる箇所をメモしておくとか、マハが年に2回保守点検で音楽堂に来るとき、それを頼りに調整してくれます。

―弾かないとだめになるというのは本当なんですかね。
コロナのとき演奏会がなくなり、2007年の能登半島地震、2011年の東日本大震災のときもオルガンをチェックしているんですが、07年の時は度パイプの位置がズレてしまっ、ヤマハに直してもらいました。11年の時は特に問題はなく、その後パイプの足元の歪みが出てくるようになりました。

―定期的に弾いていてよかったな、と思っただけですか？
2年前の地震だけでなく、私は2007年の能登半島地震、2011年の東日本大震災のときもオルガンをチェックしているんですが、07年の時は度パイプの位置がズレてしまっ、ヤマハに直してもらいました。11年の時は特に問題はなく、その後パイプの足元の歪みが出てくるようになりました。

PICK UP!

2026年の音楽堂は
オルガンコンサートが目白押し!

4/21 12:15 開演
ランチタイムコンサート
◎オルガン：黒瀬 恵 ※P17の詳細をご覧ください。

6/22 12:15 開演
ランチタイムコンサート
◎オルガン：黒瀬 恵
◎ソプラノ：津野里絵子 ◎テノール：松岡大海

10/14 19:00 開演
オルガン・リサイタル
◎オルガン：トーマス・トロッター

12/9 12:15 開演
ランチタイムコンサート
◎オルガン：春日朋子 ◎ソプラノ：石川公美
◎ヴァイオリン：竹田樹莉果 ◎ピアノ：山田ゆかり
続報はカデンツァもしくは石川県立音楽堂HPにて!

―今回の改修で全面管（客席側から見えるパイプ）はほとんど交換されましたよね。
それによって地震や経年劣化による歪みは解消されますが、パイプが変わることは厚みや素材が変わってしまうので、音も変わる可能性があります。でも実際聞いて、本当に開館当時の音に戻っていると感じました。あれはすごいこと！ 整音師の腕ですね。

―あらためてオーバーホールを終えたオルガンの音はいかがですか。
25年前、音楽堂の建設中に弾かせてもらったときの響きを思い出しました。真っ直ぐスーッと、明瞭さが一番来るって感じ。川だって小石があったらガタガタになるように、埃で空気の通り道が塞がっていたからでしょうね。

―今回の改修で整音師の方に要望を出された伺いました。
音楽堂のオルガンは岩城宏之さんの意向を受けて「オーケストラと合わせるためのオルガン」でもあるんですね。ただ合わせる時にちょっとオルガンの音が小さくて指揮者の要求に応えきれない時があったから、整音でバランスを整えてもらいました。だから今はとてもバランスがいいんですよ。

岩城さんがつけられた風圧を変える機能も含めて、このオルガンは岩城さんが金沢に遺された財産のひとつです。この機能は演奏会で一度も使われてないですが、そんな作品が生まれるといいですね。そして、このオルガンを見守る次世代も見つけられたらと思います。



リハーサル中からも団員に電話をして聞いたりしていたようなのです。「ただ、指揮しながらうなるのはやめなさい」と。実は、僕は大学では小林研一郎さんの弟子だったので、指揮しながらうなるのは普通だと思っていたのですが、岩城さんはそうでは無かったです。ただ、評価はして下さって、さらに「合唱とオーケストラを両方振る指揮者はいないから、それは続けて行くと思う」とおっしゃっていた。それが岩城さんの遺言ですね。

その登竜門コンサートのすぐ後に、岩城さんが東京混声合唱団の定期演奏会を振られる機会があったので、その時に挨拶に伺いました。そうしたら、すごく良い笑顔で「良いオーケストラだろ？」とおっしゃっていました。そしてその後に、岩城さんが最後にOEKを振られた演奏会(第200回定期演奏会)がありました。5月の下旬には東京混声合唱団創立50周年コンサートが岩城さんの最後のコンサートになりました。

2009年にブザンソン国際指揮者コンクールで優勝しましたが、岩城さんとの出会い、OEKとの出会いがあった2006年は本当に忘れられない年です。その後、井上道義さんが岩城イズムを引き継がれ、その後はさらに広上淳一さんがそれを引き継がれた。もちろん井上さんの後に、ヨーロッパの鬼才ミンコフスキが指揮台に立ったのも凄いことです。



沖澤のどか・篇

2025年3月にオーケストラ・アンサンブル金沢の金沢、東京、浜松公演も指揮した沖澤のどか。現在はベルリン・フィルハーモニー管弦楽団でキリル・ペトレンコのアシスタントを担当しながら、2023年からは京都市交響楽団の第14代常任指揮者に就任。またセイジ・オザワ松本フェスティバルの首席客演指揮者としても活躍している。彼女は2011~12年にオーケストラ・アンサンブル金沢の指揮研究員として金沢で過ごした経験があった。その時の思い出を含めて、このオーケストラに生き続ける個性について伺った。

NODOKA OKIZAWA

オーケストラ・アンサンブル金沢の指揮研究員だったのは、ちょうど東京藝術大学を卒業して、その大学院に入るのが決まっていた時でした。それで大学院に入るのをいったん待って、金沢にアパートを借りて暮らすようになりました。近江町市場からちょっと先に行ったあたりのアパートで、そこから自転車で石川県立音楽堂まで通っていました。一年半ぐらいの期間だと思います。午後から出勤の日は、近江町市場で何かを食べながら行ったたり、また、金沢にいる間に、それぞれの季節の旬の食べ物は全部食べようと思っていたので、5キロぐらい太りました。

ブザンソン国際指揮者コンクール優勝後にOEKを振った小松定期にて(2019年11月)

指揮者が引き継いで来て作ったのがOEKの魅力だと思います。岩城さんは何か自分のやりたい企画があると、ポケットマネーを出して実現してしまうような懐の深さがありました。またベートーヴェンの交響曲全曲を一気に演奏してしまうような破天荒さも持ち合わせていらつした。岩城さんはたくさん本も書かれていましたし、直接、僕に掛けられた言葉もありましたから、それらも皆さんの財産として、僕から伝えられるものは伝えて行きたいと思っています。

速報!

10/22(木) 開場 19:00
会場: コンサートホール

開館25周年記念

スペシャルコンサート「森のうた」

出演: 野村萬斎(石川県立音楽堂芸術監督)(語り 他)
指揮: 山田和樹 テノール: 宮里直樹 パス: 加藤宏隆
合唱: 東京混声合唱団+OEK合唱団(選抜)+石川の児童合唱(公募)
管弦楽: オーケストラ・アンサンブル金沢
ベートーヴェン/山本直純「変」曲: 交響曲第45番「宿命」
シヨスタコーヴィチ/「森のうた」日本語版

※2026年4月1日現在
※続報はカデンツァや石川県立音楽堂HPでの発表をお待ちください。

ただ、生活はギリギリだったので、楽団員のみなさんがいろいろと気にかけてくれて、一緒に飲みに行ったりすることもよくありました。私は青森出身ですが、金沢のお酒は東北のお酒とは違っていましたし、魚も日本海産の味が、その組み合わせがとても素晴らしいと思いました。

その時期はちょうど井上道義さんが音楽監督で、また山田和樹さんがミュージックパートナーであった時代です。オーケストラの演奏を聴いて感じたのは、とても洗練された音色を持つオーケストラということでした。そして指揮者まかせにするのではなく、オーケストラのメンバーが自主的にフレーズを考えたり、リハーサル中でもメンバー同士が話し合ったりすることも、とても個性的なオーケストラだと思います。井上さんはオーケストラのセッティングを変更したりして、大きなオーケストラでは大変だと思われるような、小さなサイズのこのオーケストラでは出来るのだなと感じました。リハーサルのコミュニケーションも英語でしていたので、日本語でするリハーサルとはやはり違う雰囲気が出ていて、それがこのオーケストラのユニークさの一部になっていると感じていました。

でも、指揮研究員は実際に振る機会はないので、それをちょっと山田さんに愚痴たら、プロコフィエフの「古典交響曲」をリハーサルの時に振らせて下さいました。また、子供たち向けのコンサートだったのかもしれないが、井上さんが「運命」のことを話していたら、舞台袖に居た私を見つけて、急に「振ってみて」と言われたことも良い思い出ですね。

オーケストラは現在、世界的に均一化していると言われますが、OEKはとても個性が生きているオーケストラだと思います。



OEKと初共演となった2006年第5回登竜門コンサートより(ヴァイオリン: 篠原悠那)

私が居た時代とは管楽器のメンバーがかなり替わったはずですが、それでもOEKとしての音は変わっていないと思います。それはホールが変わらず残っている響きというものもあると思いますし、その土地の空気感が残っているとも言えると思います。そうしたオーケストラの個性を持ち続けているということが大切だと思います。

山田和樹さんと出会ったのも金沢が初めてでした。ちょうどブザンソン国際指揮者コンクールで優勝された後だったので、かなりお忙しい時期だったと思いますが、アマチュアのオーケストラを紹介して頂いたり、一緒に演奏会で指揮をさせて頂いたり、また、日本でのマネージメントを探す時にもとても親身に手伝って下さったり、いろいろとお世話になりました。

井上道義さんとは独特の距離感がありましたが、一緒に生牡蠣を食べに行ったりしたこともあります。指揮者と副指揮者が一緒に牡蠣を食べてはいけないと、後で思いましたが、井上さんは引退されましたけれど、本当に残念です。あの動きからしか生まれない音楽があったと思いますし、それがオーケストラ・アンサンブル金沢の個性としても残っていると思います。

また、岩城宏之先生の個性も息づいています。昨年メルボルン交響楽団へ客演した時に、岩城先生の時代にも団員だった方に会って、当時のお話を伺いました。オーケストラ・アンサンブル金沢が発足した時にもメルボルンから何人かの演奏家に参加されたと思うのですが、このオーケストラを通して、そうした縁がたくさん生まれたと感じています。そういう点で、インターナショナルな接点を持つオーケストラなのだと思います。

優秀賞受賞の俊英たちが語る — コンサートへの想い —

Tchika Abe



安部 一花
ソプラノ

石川県能美市出身。小松市立高等学校普通科芸術コースを卒業。現在東京藝術大学音楽学部声楽科第3年次に在学中。第28回、29回、30回石川県高等学校声楽コンクールにおいて第1位。第76回滝廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールにおいて第3位。東京藝術大学パハカンタークラブ2025年定期演奏会にソリストとして出演。石野和佳子、佐々木典子の各氏に師事。

ずっと憧れていた舞台上に立たせていただく機会をいただき、心より嬉しく思っております。また、広上先生という素晴らしい指揮者のもと、OEKの皆さまと共演させていただけることに、身に余る光栄を感じております。

今回私が歌わせていただくのは、パミーナという恋する少女が、愛する人に向けて歌うアリアです。突然心を閉ざってしまった愛する人に絶望し、死さえも考えてしまうほどの深い悲しみが描かれています。パミーナの繊細で切実な心情を表現できよう、精一杯努めてまいります。

Fumitaka Takebayashi



竹林 史貴
バリトン

富山県出身。富山県立呉羽高等学校普通科音楽コースを卒業。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業時に学内にてアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。2018年度公益財団法人青山財団奨励学生。第7回東京国際声楽コンクール高校生部の部第4位。並びに石川地区大会優秀賞。声楽をこれまでに澤山圭子、黒崎隆憲、福島明也、田口昌範の各氏に師事。

この度は北陸新人登竜門コンサートに出演させていただき、大変嬉しく思います。また、広上先生ならびにオーケストラ・アンサンブル金沢の皆様と共演させていただけますこと大変光栄に存じます。

「ラポネム」、「トウランドット」などの数多くの代表作を世に生み出したプッチーニ作曲の歌劇「エドガール」では、フランクがティグラーナという悪女に魅了され、抗えない自分を恥じ、苦悩する男の心情を歌います。ドラマチックなオーケストラの響きをお楽しみいただきながら、今日までサポートいただきましたすべての皆様に感謝の気持ちを込めて演奏いたします。

Mayuki Sacki



佐伯 昌恭
バリトン

富山県高岡市出身。愛知県立芸術大学院博士前期課程を修了。第2回 国際声楽コンクール東京 入選。第78回 日本学生音楽コンクール 名古屋本選第2位。全国大会入選。愛知県立芸術大学オペラ2024《フィガロの結婚》、2025《ドン・ジョヴァンニ》の両公演において表題役で出演。声楽を黒崎隆憲、森寿美の各氏に師事。富山県オペラ協会芸術会員。

尊敬する先輩方が出ておられたこのコンサートに僕も出演できること、大変光栄に思います。

今回歌うのは、ウェーバーのオペラ《魔弾の射手》の第一幕ラストを飾る、カスパールという役のアリアです。自身を振ったアガートとその婚約者のマックスへの復讐が叶うことへの喜びが歌われています。曲調の変化に富み、音域も幅広く、短くも聴き手の印象に残る壮大な一曲だと感じています。

オペラを愛する気持ちをこの歌に込め、聴いていただく方に伝わるよう精一杯演奏させていただきます。

Yuki Takahashi



高橋 侑希
ソプラノ

山梨大学大学院修了。ハンブルク音楽院を最優秀の成績で修了。パッハ「短調ミサ曲」[マタイ受難曲]等でソリストを務める。第10回東京国際声楽コンクール歌曲部門第2位、第29回日本ドイツ歌曲コンクール入賞等。声楽を領取智子、片野耕喜、イルゼ・クリスティーネ・オットー、タニア・アスベルマイヤー、ペッリーナ・バーン、陽岐彩夏の各氏に師事。現在、富山福祉短期大学幼児教育学科助教。富山県高岡市在住。

憧れのオーケストラ・アンサンブル金沢の皆さま、そして広上淳先生との共演に、身に余る光栄と喜びを感じております。山梨県に生まれ、富山の地に来て一年半が過ぎました。豊かな自然と美しい四季、そして時に厳しい気候の中で、音楽と向き合い、研鑽を積む日々、深い感謝を抱いています。

今回演奏させていただくのは、オペラ「ルサルカ」より「月に寄せる歌」です。どの場所においても、月は変わらず私たちを見つめ、そっと照らし続けてくれる存在です。その静かな光に想いを重ね、心を込めて歌いたいと思います。

Nichika Sanga



三箇 二千夏
ソプラノ

富山県射水市出身。国立音楽大学大学院音楽研究科修士課程声楽専攻歌曲コースを修了。学内にて白井光子招聘教授による特別公開レッスンを受講。2022年度卒業演奏会に出演。第33回日本ドイツ歌曲コンクール日本歌曲賞受賞。天沼裕子プロデュース「アマデウスが語る美しき魔笛」夜の女王役で出演。これまでに声楽を黒崎隆憲、平井香織、佐藤ひさら、高橋薫子の各氏に師事。

小さい頃から何度も訪れた石川県立音楽堂で、オーケストラ・アンサンブル金沢の皆さまと共演させていただきますこと、大変嬉しく思います。

今回演奏する《夢遊病の女》より「愛する仲間たち…なんと晴れやかな〜私の胸に手を置くと」は、結婚を控えた主人公パミーナが孤児だった自分を育ててくれた養母や村の人々へ感謝と喜びを語る、物語の冒頭で歌われるアリアです。オーケストラとの共演は初めてで緊張もありますが、大きな舞台でこのような機会をいただけたことに感謝し、皆さまに楽しんでいただけるよう心を込めて演奏いたします。

Rion Okumura



奥村 麗音
ソプラノ

石川県白山市出身。石川県立金沢二水高校を経て、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。二期会オペラ研修所第71期予科修了。修了時、奨励賞を受賞。第102回二期会研修所コンサートに出演。第93回東京国際芸術協会新人演奏会オーディションにて優秀新人賞を受賞。第35回日本クラシック音楽コンクール声楽部門一般女子の部最高位。現在、声楽を菅英三子氏に師事。今年度、二期会オペラ研修所第71期本科に特待生として在籍中。

この度は北陸新人登竜門コンサートに出演させて頂き、誠に光栄に存じます。目標としていた人生初のオーケストラとの共演が生まれ育った石川の地で、憧れのOEKの皆様となり、非常に身の引き締まる思いです。

今回演奏致しますマーン・レスコーのアリアは私の音楽人生を語る上で絶対に外すことの出来ない、大切に歌い続けてきた一曲です。私に沢山の素敵な景色を見せてくれたこの曲を通して、これまで出会い、支えてくださった皆様へ恩返しすると共に、自らの未来に向けて新たな一歩を踏み出せるよう、精一杯歌いたいと思います。

Yumeko Tatezuka



立塚 夢子
ソプラノ

金沢大学学校教育学類音楽教育専修を首席卒業。愛知県立芸術大学大学院博士前期課程修了。オペラでは「コジ・ファン・トゥッテ」(デスピナー役)「カルメン」(フラスキータ役)「蝶々夫人」(タイトルロール)「ラ・ボエーム」(ムゼッタ役)に出演。東海学生アメリカン・フットボール連盟の大会で日本国歌独唱を務めるほか、ベートーヴェン「第九」のソリストを務める。

ドニゼッティ作曲(リタ)より「この清潔で愛らしい宿」を演奏いたします。軽快な音楽の中に、宿屋を切り盛りする気丈で現実的なリタの姿と、どこか愛らしさや弱さも併せ持つ人物像が描かれています。過去と現在の関係のはざまに揺れ動く彼女の姿には、人間らしい葛藤と愛嬌が入り混じっています。

富山に生まれ、金沢で学んだ私にとつて、北陸の舞台は原点であり、特別な場所です。オーケストラ・アンサンブル金沢の皆様と共演できる喜びと感謝を胸に、この曲が持つ音楽の魅力をお楽しみいただけたら幸いです。

Riho Yuzawa



湯澤 里帆
メゾ・ソプラノ

石川県金沢市出身。国立音楽大学声楽専修を首席にて卒業。同大学院修士課程声楽専攻修了。声楽を串田淑子、下原千恵子の各氏に師事。これまでにオペラでは「コジ・ファン・トゥッテ」(ドラベツァ)、「ドン・ジョヴァンニ」(ドン・エルヴィーラ)、「魔笛」(侍女)、「セルセ」(アマストレ)等を演じる。第25回日本演奏家コンクール声楽部門一般Aの部第1位、第6回かわさき新人声楽コンクール第2位など複数のコンクールで入賞。

石川県立音楽堂で演奏する事は、音楽を学び始めた幼い頃からの夢でした。今回憧れの舞台で演奏させていただける事、大変光栄で嬉しく思います。

今回演奏致します「この歌は」はオペラ「セヴィリアの理髪師」の中で、「運命は自分で切り開いていく!」という気概のある、お転婆娘ロジーナによく歌われます。

この曲には細かく速い音符の連なりを敏捷に歌う「アジリタ」というテクニックがたくさん登場し、明るく華やかでエネルギーにあふれた曲です。この曲の持つパワーを皆さまにお届け出来るよう、心を込めて演奏致します。

5/17(日) 開場 14:15 / 開演 15:00
会場: コンサートホール

第24回北陸新人登竜門コンサート《声楽部門》

指揮: 広上淳一 (OEKアーティストック・リーダー)

ソプラノ: 高橋侑希、立塚夢子、奥村麗音、安部一花、三箇二千夏

メゾソプラノ: 湯澤里帆 バリトン: 竹林史貴、佐伯昌恭

管弦楽: オーケストラ・アンサンブル金沢

【全席自由】一般 1,000円 / 大学生以下 500円

ドヴォルザーク/「ルサルカ」より「月に寄せる歌」

ドニゼッティ/「リタ」より「この清潔で愛らしい宿」

ロッシーニ/「セヴィリアの理髪師」より「今の歌声は」

プッチーニ/「マノン・レスコー」より「一人寂しく捨てられて」

プッチーニ/「エドガール」より「この愛は私の恥」

モーツァルト/「魔笛」より「愛の喜びは露と消え」

ウェーバー/「魔弾の射手」より「黙っておけ、黙っておけよ、誰もお前にそれを告げぬよう」

ペッリーニ/「夢遊病の女」より「愛する仲間たち…なんと晴れやかな〜私の胸に手を置くと」

オーケストラ・アンサンブル金沢では、北陸にゆかりのある新人演奏家の発掘と支援を目的とした「北陸新人登竜門コンサート」を毎年開催し、若きソリストと共演しています。この度、そのソリストを決めるオーディションが行われ、24名の応募者より8名が優秀者として選ばれました。5月のコンサートに臨む意気込みをお聞きしましたので、当日は地域から羽ばたく若い才能に客席からエールを送りましょう!

4/28・5/5

ガルガンチュア音楽祭

Gargantua Music Festival 2026

注目の公演3選

文：戸部亮（音楽評論家）

音楽祭は今や人を呼び込む絶好の仕掛け。ゴールデンウィーク、夏季休暇を利用した音楽祭は日本各地で定番化した。そのような中、仕掛けを差別化させて、ユニークな舞台とするにはどうするか。音楽祭が選ばれるポイント、それはオリジナリティを作り込めるかだ。日本有数の歴史と伝統ある都市、金沢での開催それをベースにさらにブラッスアルファで独自性を加えられるか。それがポイントになるが、今年もガルガンチュア音楽祭は作り込んでいる。池辺晋一郎、広上淳一、オーケストラ・アンサンブル金沢といった「地元勢」を基軸に国内外、若手からヴェテラン、さらにはクラシック以外にもスコープを広げる顔ぶれと公演。他にはないオリジナリティがある。あらゆる人が面白いと思えるパフォーミング・アーツとは何たるものか、それを楽しく実感できる場。今年のGWも北陸・金沢はおもしろい。



#2 C54 5/5 (火祝)

19:45-21:00
会場：音楽堂コンサートホール

「クロージングコンサート／オペラアリア紅白歌合戦」

名アリアが一堂に集結！ 音楽祭のファイナーレは歌合戦

5月3日「ミュンヘンのマイスター・ジンガー達」、4日金沢市アトホールでの「日本人トップ歌手たちのオペラの共演」や「トスカ」（ハイライト）等とセットで聴いてもらいたい。出演する日本の歌手たちの顔ぶれを見てほしい。一見してわかるように、いま日本で旬真っ盛りの歌手たちが今回、金沢に集まっている。今や日本人歌手のトップレベルは極めて高水準。本場に十分に対抗できるくらいだ。海外からの歌手も交えて締め公演は「紅白歌合戦」。豪華なアリアのつまみ食いを旬な歌手でどうぞ。

OEKは今年も音楽祭で大活躍！演奏はこちらでチェック！



#1 C43 5/4 (月祝)

16:40-17:30
会場：音楽堂コンサートホール 「クレームル×バーンスタイン」
ヴァイオリンの巨匠 ギドン・クレームルのいまを聴く

ギドン・クレームル、彼のことを20世紀後半を代表するヴァイオリニストと誰もが認める。代表的なバーンスタインとウィーン・フィルと共演したブラームスの協奏曲。バーンスタイン庇護の下、クレームルは因習と距離を置き、自らが考える作品像をプレゼンテーションする。天才ぶりを発揮した。

時が経た。今度は20世紀を代表する作曲家を直接知るクレームルが作曲家バーンスタイン像を知らしめる。弦楽器奏者の宿命として「若い」によって壮年期の輝かしさは過去の遺物となる。それを懐かしむのもいい。しかし真のマスターは年齢に関係なく作品の本質を我々に伝える。それがクレームルの今の至芸だ。



▲2019年の音楽祭に登場したクレームル。7年ぶりの金沢登場となる。

クレームルは室内楽も大注目！

H34 5/3 (日祝)

19:40-20:30
会場：音楽堂邦楽ホール
ギドン・クレームル トリオ「大仏」

クレームル出演の公演チケット購入はこちらから！



児玉隼人

©Yuta Ueno

彗星の如く現れた 天才トランペッターが金沢初登場

今年のガルガンチュア音楽祭ではトランペットの児玉隼人は絶対に聞いておいてほしい。2009年北海道釧路市生まれ。周縁から出てきた天才トランペッターはすでに大活躍。評価も加速度がついて高まっている。今は怖いものなして道を進んでいるだろう。本当の意味での「恐れ」もないだろう。だからこそそういう時期に必ず聴いておきたい。必ずや成長の過程で児玉のトランペットも変化していくだろうから。

ソロリサイタルも登場！



A32 5/3 (日祝)

14:00-14:50
会場：金沢市アートホール
児玉隼人 トランペッターサイタル 共演：竹田理琴乃(ピアノ)

#3 H42 5/4 (月祝)

12:40-13:30
会場：音楽堂邦楽ホール
「児玉隼人×ハイドントランペット協奏曲」





クラシックを聴いて創作。自分が読みたい物語を求めて

金沢といえば、若い頃に読んだ井上靖さんのエッセイで、犀川について「独特な川波のきらめきを持った川」と表現した一文が心に残り、ずっと来てみたいと思っていました。井上靖さんは旧制四高のご出身で、学生時代を金沢で過ごされたんですね。しばらくして念願かなって金沢を旅し、犀川のほとりのお店でゴリや治部煮をいただきました。

40代の頃には着物に凝って、外出はほとんど着物でした。加賀友禅も好きで、よく着ましたね。生地についた糊や余分な染料を川で流す「友禅流し」の風情ある光景を一度は見てもみたかったです。

今回いただいた和菓子「わり氷」はきれいでやさしいお味です。つい、もう一個と手が伸びます。金沢は茶道が盛んで、和菓子も凝っていますね。「金沢」という文字が醸し出す雰囲気からしてクラシックで惹かれます。

音楽堂の公演では、私の作品に合わせてさまざまなクラシック曲をご提案させていただきました。青島広志先生に曲をつけていただいた「さんさん桜」（「桜の森の空より」）は、とてもドラマチックでした。

音楽は古いシャンソンやロックも好きですが、クラシックが一番飽きません。締め切り間際の修羅場はモーツァルトの交響曲第40番を聴いて乗り切りました。もう後がない、断崖絶壁の時です。「摩利と新吾」ではベートーヴェンのテンペスト、「白妖の娘」ではブルックナーの交響曲第7番をかけていました。音楽があると



木原敏江先生が出演された青島広志先生との「少女漫画交響詩Ⅳ」の公演風景 (2026年1月12日)

情感が膨らむんです。でも甘いシヨパンやロマンチックなラフマニョフに似合うお話は描けなかったですね。

最近の流行の曲はほとんど聴きません。歌詞が直接話法ばかりで、想像力を広げる余白がないように思えてしまっています。

少女漫画もそうです。実は「白妖の娘」を最後に、漫画を描くのは辞めるつもりでした。これで気が済んだと思いい、ほかの方の作品を読んでいます。でも最近少女漫画でも転生ものも流行しています。すごく直接

的な話で、想像力が刺激されません。「自分が読みたい物語は、自分で書けばいい」と思い、描いたのが「ミーガンとD卿」です。発表するつもりはなかったのですが、ノートに鉛筆描きで200ページほどできてしまつて、別の用件で連絡のあった小学館の編集長に話したら、とんとんと話が進み、連載が始まりました。みんな最初は自分のために作品を描きますよね。原点に戻ったような気持ちで楽しく書いてるのが、読者の皆さまにも伝わるのではないのでしょうか。

少女漫画家

木原敏江

東京都目黒区出身



文：本江亜珠佳

Toshie Kihara
manga artist

木原敏江 / 1969年、『別冊マーガレット』（集英社）掲載「こっちを向いてママ!」でデビュー。華麗で端麗な筆致で、ロマンチック・コメディから歴史大河、幻想口マンまで描き出す幅広い作風が絶大な人気を博す。代表作に「摩利と新吾」「アンジェリク」「天まで上がれ!」「夢の碑」で第30回小学館漫画賞受賞。1997年「雨月物語」で文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞受賞。2017年、その画業をまとめた『総特集 木原敏江〜エレガンスの女王〜』（河出書房新社）刊行。その不朽の名作の数々は、今なお新たなファンを獲得している。現在、増刊フラワーズ（小学館）にて「ミーガンとD卿」を連載中。

木原敏江さん
イチオシ!

和菓子村上「わり氷」

淡く透きとおった色彩の繊細な干菓子

寒天とお砂糖、そして白山の伏流水。基本原料はこの3つだけ。質素な原料だからこそ、素材の良さが生きるお菓子です。キューブ型の箱にプレーンの25gの個包装が4袋封入。箱には金沢ならではの加賀手毬が描かれています。

INFO 和菓子村上 金沢百番街店

石川県金沢市木ノ新保町1-1 金沢百番街あんと
TEL.076-260-3761 営 8:30~20:00 休 不定休



オーケストラ・アンサンブル金沢 音楽堂以外の公演

宝くじ文化公演 おべらくご「フィガロの結婚」

指揮：松井慶太
語り：桂米團治
クラリネット：遠藤文江
ソプラノ：三井清夏、小林香奈
メゾ・ソプラノ：西村かおり
モーツァルト：交響曲 第1番 第1楽章
モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク 第1楽章
モーツァルト：クラリネット協奏曲 第2楽章
モーツァルト：交響曲 第41番「ジュピター」 第4楽章
おべらくご「フィガロの結婚」

●岡谷公演

6/20(土) 開場 14:00 / 開演 15:00

〈会場〉岡谷市文化会館
〈問合せ〉岡谷市文化会館 0266-24-1300
【全席指定】一般 3,000円 / 高校生以下 1,500円

●長野公演

6/21(日) 開場 13:00 / 開演 14:00

〈会場〉ホクト文化ホール
〈問合せ〉ホクト文化ホール 026-226-0008
【全席指定】一般 3,000円 / 高校生以下 1,500円

25歳以下の方 発売日より半額で購入可
(公演当日要証明書類)

1,000円以下で入場できる公演

託児サービスあり(有料:要事前申込み)

4/4(土) 開場 14:15 / 開演 15:00

交響組曲「ドラゴンクエストⅡ・Ⅲ」セレクション

指揮：渡邊一正
すぎやまこういち/
交響組曲「ドラゴンクエストⅡ・Ⅲ」セレクション
〈会場〉上越文化会館
〈問合せ〉上越文化会館 025-522-8800
【全席指定】6,600円

ガルガンチュア音楽祭 復興応援コンサート

指揮：柴田真郁
ヴァイオリン：神尾真由子
モーツァルト/アイネ・クライネ・ナハトムジーク
モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲 第5番「トルコ風」
モーツァルト/交響曲 第40番

●内灘公演

4/18(土) 開場 13:30 / 開演 14:00 (安)

〈会場〉内灘文化会館大ホール
〈問合せ〉石川県立音楽堂チケットボックス 076-232-8632
【全席自由】一般1,000円 / 高校生以下無料

●珠洲公演

4/19(日) 開場 13:30 / 開演 14:00 (安)

〈会場〉ラポルトすず
〈問合せ〉石川県立音楽堂チケットボックス 076-232-8632
整理券はラポルトすず 0768-82-8200
【全席自由】一般1,000円 珠洲市民無料 ※要整理券

コンサートホールほか

5/3(日)祝 — 5(火)祝



交流ホール

6/28(日) 開場 10:00 / 開演 10:30
開場 13:00 / 開演 13:30

クラシック for KIDS 「王様の耳はロバの耳」

バリトン：原田勇雅 案内役：桂 空治
ヴァイオリン：藤田千穂、高田愛子
ヴィオラ：般若佳子 チェロ：富田 祥
ピアノ：山田ゆかり

王様の耳はロバの耳(音楽劇)ほか
【全席指定】一般 1,000円 / 中学生以下 500円
シート席 2,000円(1シート3名まで)
◎4/21(火) チケット発売

5/23(土) 開場 13:15 / 開演 14:00

オーケストラ・アンサンブル金沢 第500回定期公演

フィルハーモニー・シリーズ 祝! 500回。

記念すべき公演で広上淳一が第九を披露!
指揮：広上淳一(OEKアーティストック・リーダー)
薩摩琵琶：久保田晶子
筆策：中村仁美
ソプラノ：経塚果林
メゾ・ソプラノ：石田 滉
テノール：工藤和真
バリトン：池内 響
合唱：オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団
(合唱指揮：浅井隆仁)

池辺晋一郎/交響詩「豊穡の道」—薩摩琵琶、筆策とオーケストラのための(いしかわ百万石文化祭2023委嘱作品)
ベートーヴェン/交響曲 第9番「合唱付」
【全席指定】SS席 7,000円 / S席 6,000円
A席 4,500円 / ビスタ席 2,500円
スターライト席 1,500円 / 車椅子席 6,000円

6/22(月) 開場 11:30 / 開演 12:15

音楽堂ランチタイムコンサート

オルガン：黒瀬 恵
ソプラノ：津野里絵子
テノール：松岡大海

【全席自由】500円 / 3歳以上入場可

6/27(土) 開場 14:00 / 開演 15:00

オーケストラ・アンサンブル金沢

ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT Vol.11

オーケストラ・アンサンブル金沢 プレミアム・コンサート in 金沢

指揮：角田鋼亮
ヴァイオリン：郷古 廉
司会：松本志のぶ

岩代太郎/東風慈音ノ章 (ローム ミュージック ファンデーション) 設立30周年記念 委嘱作品
ブラームス/ヴァイオリン協奏曲
チャイコフスキー/バレエ音楽「眠りの森の美女」組曲より
チャイコフスキー/バレエ音楽「白鳥の湖」組曲より

【全席指定】S席 4,000円 / A席 3,000円 / B席 2,000円
アーカイブ配信チケット: 500円
(来場者限定価格400円)

4/21(火) 開場 11:30 / 開演 12:15

音楽堂ランチタイムコンサート

オルガン：黒瀬 恵
J.S.バッハ/「平均律クラヴィア曲集第1巻第1番」より前奏曲、小フーガ BWV578
唱歌/ふるさと ほか
【全席自由】500円 / 3歳以上入場可

4/29(水)祝 開場 13:00 / 開演 13:45

オーケストラ・アンサンブル金沢

ガルガンチュア音楽祭 オープニングコンサート

指揮：広上淳一(OEKアーティストック・リーダー)
松井慶太(OEKパーマネント・コンダクター)
バレエ：K BALLET STUDIO
モーツァルト/アイネ・クライネ・ナハトムジーク
ドヴォルザーク/スラヴ舞曲
ラヴェル/古風なメヌエット ほか
【全席指定】S席 3,500円 / A席 2,500円
小学生から入場可

5/10(日) 開場 13:30 / 開演 14:00

オーケストラ・アンサンブル金沢

未来を奏でる9人のピアニスト OEK交流コンサート

指揮：広上淳一(OEKアーティストック・リーダー)
指揮：喜古恵理香
ピアノ：青木凜香、櫻尾 岳、北瀬遥夏
榎尾穂高、上大門優花、松並寧音
加藤 祈、早瀬ひまり、河合竜謙

清水目千加子/扉の向こう(委嘱作品)
モーツァルト/ピアノ協奏曲 第20番 第2楽章
ハイドゥン/ピアノ協奏曲 第11番 第1楽章
モーツァルト/ピアノ協奏曲 第12番 第1楽章
モーツァルト/ピアノ協奏曲 第27番 第2楽章
サン＝サーンス/ピアノ協奏曲 第5番 第1楽章
ショパン/ピアノ協奏曲 第2番 第1楽章
シューマン/ピアノ協奏曲 第1楽章
プロコフィエフ/ピアノ協奏曲 第3番 第3楽章

【全席自由】一般 2,000円 / 学生 1,000円
〈問合せ〉(公財)日本ピアノ教育連盟北陸支部 kinoy222@gmail.com

5/17(日) 開場 14:15 / 開演 15:00

オーケストラ・アンサンブル金沢

第24回北陸新人登竜門コンサート 《声楽部門》

指揮：広上淳一(OEKアーティストック・リーダー)
ソプラノ：高橋侑希、立塚夢子、奥村麗音、安部一花、三箇二千夏
メゾソプラノ：湯澤里帆
バリトン：竹林史貴、佐伯昌恭

ドヴォルザーク/《ルサルカ》より「月に寄せる歌」
ドニゼッティ/《リタ》より「この清潔で愛らしい宿」
ロッシーニ/《セヴィリアの理髪師》より「今の歌声は」
ブッチーニ/《マノン・レスコー》より「一人寂しく捨てられて」
ブッチーニ/《エドガール》より「この愛は私の恥」
モーツァルト/《魔笛》より「愛の喜びは露と消え」
ウェーバー/《魔弾の射手》より「黙っておけ、黙っておけよ、誰もお前にそれを告げぬよう」
ペッリーニ/《夢遊病の女》より「愛する仲間たち…なんと晴れやかな～私の胸に手を置くと」

【全席自由】一般 1,000円 / 大学生以下 500円

コンサートホール

4/5(日) 開場 13:15 / 開演 14:00

オーケストラ・アンサンブル金沢

交響組曲「ドラゴンクエストⅡ・Ⅲ」セレクション

指揮：渡邊一正
すぎやまこういち/
交響組曲「ドラゴンクエストⅡ・Ⅲ」セレクション
【全席指定】S席 6,600円 / A席 5,500円
〈問合せ〉石川テレビ放送 事業部 076-267-6483 (平日9:30～17:00)

4/11(土) 開場 13:15 / 開演 14:00

オーケストラ・アンサンブル金沢

第499回定期公演 マイスター・シリーズ

300年の時を超えた四季を、色彩豊かな金沢で聴く

指揮：松井慶太
リーダー&ヴァイオリン：アビゲイル・ヤング*
チェンバロ：曾根麻矢子*
弦楽五重奏：オーケストラ・アンサンブル金沢メンバー★
アビゲイル・ヤング(第1ヴァイオリン)、
江原千絵(第2ヴァイオリン)、
山本 周(ヴィオラ)、植木昭雄(チェロ)、
ダニエル・ルピナス(コントラバス)

ヴィヴァルディ/四季(全曲)*
(※アビゲイル・ヤングのリーダーで演奏[指揮なし])
武満徹/弦楽のためのレクイエム(1957)
モーツァルト/フリーメイソンのための葬送音楽
ストラヴィンスキー/バレエ音楽「プルチネルラ」組曲★

【全席指定】SS席 7,000円 / S席 6,000円
A席 4,500円 / ビスタ席 2,500円
スターライト席 1,500円 / 車椅子席 6,000円

4/12(日) 開場 14:15 / 開演 15:00

オーケストラ・アンサンブル金沢

ガルガンチュア・ライジングスター ～未来へのチャレンジ～

指揮：喜古恵理香
ヴァイオリン：小川 慈、高橋桃子
ピアノ：坂下幸太郎、寺田晴香
堀田夏稀、松原遥音

ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 より
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第1番 より
ハイドゥン：ピアノ協奏曲 第11番 より
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第3番 より
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番 より
ショパン：アンダンテ・スピアネートと華麗なる大ポロネーズ
【全席自由】2,000円 / 高校生以下1,000円
3歳以上入場可

4/13(月) 19:00～20:00

オルガン体験講座

オルガンの仕組みについてオルガニスト 黒瀬恵さんが解説! 演奏体験もあります。

定員：先着20名 ※満席につき受付完了
参加費：無料

オーケストラ・アンサンブル金沢 ～和洋の響VII～ 「能舞とオーケストラ」作品(新曲)募集

若手作曲家の方々を対象として演奏作品を募集致します。
採用された作品は、オーケストラ・アンサンブル金沢の演奏により、広く国内外に発信されます。
新たな文化が生まれる瞬間に相応しい、皆様の作品のご応募をお待ちしております。

- 〈参加資格〉40歳以下(公演日当日の年齢)で、作曲を学んでいる方
- 〈応募方法〉所定の申込書に必要事項を記入し、提出物とともに下記へ送付ください。
申込書は当団ウェブサイトよりダウンロードできます http://www.oek.jp/news/wayo2026
- 〈受付期間〉2026年9月1日(火)～9月18日(金) 必着
- 〈作品内容〉・能舞と合わせることが可能な、邦楽器を取り入れたオーケストラ作品(形式自由)
・未発表の新曲であること
- 〈演奏時間〉7分程度とする
- 〈提出物〉所定の申込書、スコア(印刷されたもの2部)、デモ音源(CD)
- 〈編成〉オーケストラ・アンサンブル金沢が演奏可能な下記の編成とする
最大編成：弦楽器8型、管楽器2222-2200、ティンパニ(打楽器兼務可)1、打楽器1
- 〈審査委員〉・審査委員長 池辺晋一郎(作曲家、石川県立音楽堂エグゼクティブ・ミュージック・ディレクター)
・審査員 大友直人(初演指揮者)
- 〈作品発表〉2027年2月11日(木・祝) 14:00開演 石川県立音楽堂コンサートホール
・指揮 大友直人・管弦楽 オーケストラ・アンサンブル金沢
- 〈採用賞金〉10万円

※詳細は当団ウェブサイトをご確認下さい。(2026年4月1日より公開)

主催・申込み・問合せ先
(公財)石川県音楽文化振興事業団「和洋の響」新曲募集係
〒920-0856 石川県金沢市昭和町20-1
TEL 076-232-0171 E-MAIL office@oek.jp
https://www.oek.jp/news/wayo2026



前号より CADENZA から KADENZA になりました。

タイトルのカデンツァは、2003年の創刊時に楽章の終わりなどにある技巧的なパッセージ(いわゆる独奏者の腕の見せ所)である音楽用語「CADENZA」と能楽の大成者世阿弥の著した能楽論書「花伝書」をかけて付けられました。
原点に立ち返り、和と洋どちらのホールも併せ持つ音楽堂とOEKを表現するためデザインもあわせて一新いたしました。
今後ともカデンツァをよろしく願っています。

オーケストラ・アンサンブル金沢

、25歳以下の方いつでも

U-25 TICKET 半額!!!

若い世代に、音楽の感動を。

OEKでは新シーズンより
25歳以下の方は定期公演が発売日から全席半額。
オーケストラをもっと身近に感じてください!

OEK定期公演 2026.4-10

OEKアーティストック・リーダー
広上淳一

石川県立音楽堂コンサートホール

SS 7,000円 ▶ 3,500円 S 6,000円 ▶ 3,000円 A 4,500円 ▶ 2,250円 ビスタ 2,500円 ▶ 1,250円 スターライト 1,500円 ▶ 750円 車椅子 6,000円 ▶ 3,000円

フィルハーモニー・シリーズ

マイスター・シリーズ

ファンタスティック・オーケストラ・コンサート

ヴィヴァルディの四季を
全曲演奏!

第499回 4.11 PM 02:00

松井慶太 (指揮)
アビゲイル・ヤング (リダー・ヴァイオリン)
曾根麻矢子 (チェンバロ)
OEKメンバー (弦楽五重奏)
ヴィヴァルディ:四季
武満徹:弦楽のためのレクイエム
モーツァルト:フリーメイソンのための葬送音楽
ストラヴィンスキー:「ブルチネラ」組曲



©Ayane Shindo ©Yuji Hori

第500回記念!
ベートーヴェン「第九」

第500回 5.23 PM 02:00

広上淳一 (指揮)
久保田晶子 (薩摩琵琶)
中村仁美 (箏)
経塚果林 (ソプラノ)
石田 滉 (メゾ・ソプラノ)
工藤和真 (テノール)
池内 響 (バリトン)
オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団
(合唱指揮:浅井隆仁)
池辺晋一郎:交響詩「豊穡の道」
ベートーヴェン:交響曲 第9番「合唱付」



若き才能を迎えた夏の夜
名作「英雄」が響き渡る

第501回 7.2 PM 07:00

リオ・クオクマン (指揮)
鳥羽咲音 (チェロ)
ベートーヴェン:「エグモント」序曲
ボッケリーニ:チェロ協奏曲 第9番
ベートーヴェン:交響曲 第3番「英雄」



©Julia Wesely

モーツァルトのオペラ
名場面が蘇る!

第502回 7.18 PM 02:00

川瀬賢太郎 (指揮)
モーツァルト・シンガーズ・ジャパン (声楽)
(演出:宮本益光)
モーツァルト:歌劇「コン・ファン・トゥッテ」
(演奏会形式によるオペラ・ハイライト版)



©Tomoko Hidaki

トランペットの祭典!!

Vol.1 7.25 PM 02:00

西村大地 (トランペット)
セルゲイ・ナカリヤコフ (トランペット)
松井秀太郎 (トランペット)
中田延亮 (指揮)
曾根麻矢子 (チェンバロ)
児玉 桃 (ピアノ)
壺阪健登 (ピアノ)
小川晋平 (ベース)
きたいくにと (ドラムス)

広上マエストロの「運命」
劇的な傑作3選!

第503回 9.18 PM 07:00

広上淳一 (指揮)
黒木雪音 (ピアノ)
モーツァルト:交響曲 第25番
リスト:ピアノ協奏曲 第1番
ベートーヴェン:交響曲 第5番「運命」



佐藤俊介が指揮と
ヴァイオリンで紡ぐ特別な曲

第504回 10.3 PM 02:00

佐藤俊介 (指揮・ヴァイオリン)
モーツァルト:セレナード 第11番
シューベルト:交響曲 第5番
サリエリ:4人の為のフーガ風
スケルツォ 第2番
モーツァルト:アダージョとフーガ
モーツァルト:交響曲 第40番



©Marco Borggreve

圧倒的な技巧で注目を集める
阪田知樹 登場!

第505回 10.28 PM 07:00

クレメンス・シュルト (指揮)
阪田知樹 (ピアノ)
ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第4番
シューベルト:交響曲 第8番「グレート」



©Ayustet

チケットは
各公演3ヶ月前より販売

石川県立音楽堂チケットボックス TEL 076-232-8632

石川県金沢市昭和町20-1 (窓口) 9:00~19:00 (電話) 10:00~18:00

◎公演日に年齢が分かる書類を持参ください。



新規会員
受付中!

定期会員
お申し込み
お問い合わせ

TEL 076-232-8571

(平日) 10:00~18:00

FAX 076-232-8101 E-Mail kaiin@oek.jp

WEBのお申し込みはこちら



シリーズ会員 セレト会員

石川県立音楽堂
https://www.ongakudo.jp



オーケストラ・アンサンブル金沢
https://www.oek.jp



<< チケットのお求め >>

石川県立音楽堂チケットボックス (石川県立音楽堂1F)

TEL 076-232-8632 (窓口) 9時~19時 (電話) 10時~18時

☑ WEBからも購入できます

(公財)石川県音楽文化振興事業団 石川県金沢市昭和町20-1 TEL 076-232-8111
アクセス: JR北陸線 金沢駅兼六園口(東口)徒歩1分 / 北鉄バス 金沢駅下車